

教 科 名	公民科	科 目 名	現代社会
講 座 名	科学倫理	使用教科書	高校現代社会(実教出版) 高等地図帳 (帝国書院)
単 位 数	2単位	学年・類型	第1学年・総合理学科
履修条件	1年生必修		
履修上の 留意事項			
授業形態	一斉授業		
学習方法	座学としての授業と授業ごとの時事問題についての発表、ディベートの実施・卒業生による講演		

講座内容

目 標	人間尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としてのあり方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 ディベート実践を通じて、現代社会における問題を自ら発見・探求し、論理的に思考・議論し、発表する力を身につけさせ、総合理科学の生徒としての力を高める。		
	授業計画	学習のねらい	評価の観点及び評価方法
1 学 期	第2編現代社会と人間としてのあり方生き方 第2章他者と共に生きる倫理 仏教・キリスト教について イスラーム教・儒教について 第6章現代の経済社会と政府の役割 1経済社会の形成と変容 2市場の仕組み 3現代の企業 4経済成長と景気変動 5金融機関のはたらき 6政府の役割と財政・租税	現代国際社会を生きる上で、必要な宗教の概要について学ぶ。 現代社会における経済活動の理解を深める。	仏教・キリスト教・イスラーム教の教義について理解できているか。 現代社会と宗教の問題点が理解できているか。 経済の仕組みが理解できているか。 定期考査で記述問題を実施し、理解力・考察力の度合いを評価する。 授業中においては、口頭の質問に対する答えを評価する。 ・定期考査には、時事問題・地図問題を加える。※全学期共通
2 学 期	第8章国際経済の動向 1国際経済のしくみ 2グローバル化と国際経済 ディベート基礎 ディベートの方法とミニディベート ディベート実践 四つのテーマの設定と実践	経済のグローバル化の歩みを中心として学ぶ。 ディベートの実践を行い、現在、日本社会の抱えている課題と思考方法について学ぶ。	国際経済の実況が理解できているか。 知識の理解力や考察が十分行えているか。 論理的な思考が行えているか。 チームとして協力できているか。 発表の方法や内容が適切であるか。
3 学 期	第4章日本国憲法と国民生活 1日本国憲法の成立 クラス内ディベート・ディベート予選 特編授業「科学技術と司法」 講演:奥見はじめ氏(本校 OG 弁護士) 第4章 2平和主義と日本の安全 3基本的人権の保障2	日本国憲法の精神並びに成立過程について学ぶ。 講演において科学技術と司法の関連と科学技術の具体的な問題点について学ぶ。 日本の平和主義と基本的人権について最近の動向を踏まえつつ学ぶ。	知識の理解や現実の社会の様相が理解できているか。 講演においては、アンケートを実施する。